

平成19年一番茶実収報告

京都府立茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年	平年
自然仕立て	5月8日	5月10日	5月5日	5月7日
弧状仕立て	5月10日	5月9日	5月4日	5月6日

注) 平年は、平成6年～平成18年までの13年間の値

2. 生葉収量(kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	589.9 ± 91.4	102	532.5 ± 73.1	92	580.6 ± 71.0	100
弧状仕立て	438.1 ± 38.2	122	264.4 ± 42.5	74	358.3 ± 60.5	100

3. 百芽重(g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	46.0 ± 6.0	92	42.1 ± 2.1	84	50.1 ± 5.3	100
弧状仕立て	72.4 ± 3.7	141	32.3 ± 9.0	63	51.5 ± 9.6	100

4. 新芽数(本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	509.8 ± 115.6	109	455.4 ± 57.3	97	467.2 ± 67.3	100
弧状仕立て	1156.7 ± 196.5	82	1630.0 ± 395.4	116	1408.4 ± 308.9	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度(%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	44.1	36.7	45.8
弧状仕立て	44.2	36.1	43.9

6.概要

(1)摘採期

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園が5月8日で、前年より2日早く、前5か年平均より3日遅れた。弧状仕立て園は5月10日となり、前年より1日遅く、前5か年平均より6日遅れた。

(2)生葉収量

10a当たりの生葉収量は、自然仕立て園が590kg(前5か年並み)、弧状仕立て園が438kg(前5か年比多い)であった。収量構成は、自然仕立て園ではやや芽数型、弧状仕立て園では芽重型の傾向となった。

(3)病害虫の発生状況

一番茶新芽への病害虫の発生はゴマフボクトウ、クワシロカイガラムシがやや目立った以外は比較的少なく、実害はなかった。

(4)周辺茶園の状況

4月下旬の低温により新芽の生育が抑制されたところもあり、一部の地域では減収した。

病害虫に関しては、チャノホソガ、チャノキイロアザミウマがやや多く発生した他は、平年並みの発生であった。